



PC教室のようす。情報を制する者はなんとやらです。

CONTENTS

2015年望年会無事実施 …2頁

UFO／山口咲子／F・H／Cくん／キャロル／リネカー

特集 偲ぶ会 …4頁

平野さん／松本さん／乙津さん／井上さん／藤原さん／大橋さん

篠岡さん／高橋さん／嶋川さん／澤原さん／小林（敏）さん／

多田さん／小泉さん／望月さん／和田さん／小林（照）さん／

八木さん／小野さん／藤原（仲田）さん／橋本さん／上平さん

／嶋原さん／鮎澤さん／岩澤さん／大根田さん／山崎さん

韓国研修旅行リポート …13頁

P. 6000／H・S／安兵衛

病棟転換型居住系施設を考える …16頁

孫悟麴

フランス紀行（最終回） …19頁

リネカー

編集後記 …20頁

S S K S



ほ
っ
と

「ほっとスペース八王子」ニュース

2016年4月号

152号

定価100円

Facebook 発行 E H F 電 編
便 | P | 集
行 M | A
振 A | R
所 替 L L X 話 人
〒192-0053 東京都八王子市八幡町一三二
042-6228-2319 042-6228-2786
http://homepage2.nifty.com/hotspace/
cxb01672@nifty.ne.jp
〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷三二一
7 ヴェルドウラ祖師谷一〇二号室 障害者団体定期刊行物協会
https://www.facebook.com/hachioji.hotspace



望年会ダイジェスト

2015年の望年会は、八王子労政会館の予約が微妙に間に合わず、土日を押しえられなかったため、12月17日の木曜日開催となりました。入念な打ち合わせを繰り返してきたつもりだったのですが、申し継ぎや段取りの面で齟齬（そご）があつたりして一部の人には多大な迷惑をかけてしまう結果になってしまいました。この場を借りて改めてお詫（わ）び申し上げます。

誠に申し訳ありませんでした。

当日も、かなり支度がバタバタして、開始予定時刻に始めることができませんでした。それでも会が始まると、一同みな、終始和やかな雰囲気（ぶんいき）でした。人数的にも、例年とそれほど変わりませんでした。

美味しい料理と楽しい行事。BDさんがギターを演奏し、UFOさんとキャロルさんが「太陽をどり」、ゲス

望年会

トで来られた東京チャタースのAさんが腹話術（ふくわじゆつ）。その後ビンゴゲームで盛り上がり、参加者全員からヒトコト。

お疲れの人も何名かおりましたが、全体的に楽しく、いい会だったと思います。ただ、「望年会」という行事のあり方や、開催の日時、会場、方法について、一考の余地を残した面も否めません。

望年会自体は参加者自身の手作り行事です。それを、出す料理など何から何まで手作りという考え方もあります。場所も、「ほっとスペース八王子」内で行うという選択もあります。

今後の望年会は、八王子労政会館の存続問題もあり、廃止反対のことも含め、いつにもまして入念な話し合いが必要かもしれません。

それとも一つ、今回の望年会で、デジカメをどこかに忘れて来たのか、紛失してしまい、せっかくの2015年版望年会集合写真が用意できません。そのへんも次回はいっかりしないといけません。

（編集部）

今年もできれば踊りをやりたい

UFO

2015年の望年会で、参加するのは3回目です。入会したのは2012年だったような気がするのですが、その年の望年会には参加を誘われた覚えがありません。もう過ぎた事ですが、初めて参加したのは2013年で、その時はピンクレディーの「UFO」を踊って、その次の年はお囃子（はやし）で太鼓を叩くのをやりました。2015年はキャロルさんと「太陽をどり」をやりました。（注：2012年の望年会には、UFOさん写っておりません）

（右写真）踊るUFOさん。実は2013年の望年会の写真です。2015年の望年会写真は現在捜索中…一体どこへ行ったのか…）



踊りは、結構疲れます。でも、今年も、気が早い話ですが、何か踊りを披露（ひろう）したいと思います。

何を踊るかは、まだ決めてません。でも、本当は料理とケーキが楽しみですよ。

10数年は、受付と飾り付けです。

山口咲子（やまぐちさきこ）

2015年の望年会でも、私は、受付をやりました。ここ数年は、飾り付けと受付に専念しています。

2015年は、職員のHさんと一緒に受付をやりました。ほっとスペースの監事をしているOさんは、三千円のカンパをしてくれました。望年会が始まってもしばらくは受付にいたのですが、始まってちょっとしてから、会員のHさんが来ました。そのあとで望年会に参加しました。会食をしたり、出し物を見たりしました。

UFOさんとキャロルさんの踊りや、BDさんのギター、来賓（らいひん）（東京チャタース）の方の腹話術（ふくわじゆつ）があつて楽しかったです。

料理もおいしくてよかったです。

ほっとスペース八王子に相談の電話をして、もう1か月もしないで望年会に参加する事になりました。

もちろん、初めての参加です。そのときは、まだ家庭内のことでいろいろ整理がついていない時期だったのですが、参加する事にしました。会場の八王子労政会館は、ちょっと古びた建物でしたが、案外ゆったりした感じもあります。

望年会はささやかな会という感じをイメージしていたのですが、思ったより豪華な料理がたくさん出て驚きました。

予想以上の料理でした

F・H



受付をする山口咲子さん。（2011年のです）

料理も出し物もよかった

Cくん

2015年の12月17日、八王子労政会館でほっとスペース八王子の望年会がありました。

その日は木曜日で、なぜ平日？と思ったのですが、聞くと、その日にしか会場が取れなかったとのこと。開始予定時刻をちょっと過ぎて望年会が始まりました。まず料理がおいしかったです。

UFOさんとキャロルさんの踊り、BDさんのギター、ゲストの方の腹話術と、出し物は少なかったけれど、どれも良かったです。



美味しい食事の数々。（この写真は2012年です）

「太陽をとり」をしました

キャロル

2015年の望年会は、2回目の参加になりますが、前回に引き続き、BGMの担当をすることになりました。打ち合せが何回かあって、当日にける曲をリストアップして、そこまでは順調に行きました。

当日は、「太陽をとり」をすることになっていて、そのことが頭にあったこともありましたが、BGM係は負担が大きくて、「ずっとついていなくていい」と言われたというのもあって、ちょっと安心していただけはあったかもしれませんが。結果的にもう一人のBGM係のKさんに任せる形になってしまったことはちょっと反省しています。それ以外では、出し物もビンゴも楽しかったし、料理やケーキもおいしかったです。いい望年会だったと思います。



フレッシューのかかる

役目はもう

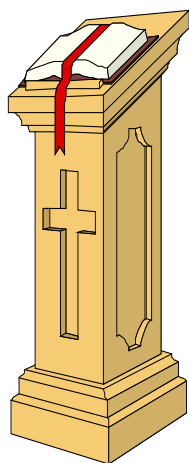
いっしょにだんご

リネカー

2015年の望年会では、司会を務めさせていただきました。その前年も司会をした気がしたのですが、その時の事は、よく憶えていません。だいたい、その時（今回の望年会）のことで頭がいっぱいだったので、その前にも司会をしたときの記憶があまりないのかもしれない。司会は、ほっとの総会や20周年記念パーティーなどで経験はあるのですが、どうしてもそのときはやっぱり緊張します。何度やっても、人前で何かをするのは緊張して、慣れることがありません。

2013年に、望年会の幹事をやったことがあるのですが、すごく大変でした。実は、もうあまりフレッシューのかかる役目はあまりやりたくないのですが、その反面、人から頼られるのも、悪い気はしません。でも本音を言えば、たまには他の人にやってほしいと思います。でも望年会は、出し物も楽しかったし、料理もおいしかったです。

特集 偲ぶ会



「ほっとスペース八王子」では、2014年から「偲ぶ会」を行っています。「ほっとスペース八王子」20年余の歴史の中、亡くなった会員、元会員は20余名に及びます。今号では、2015年の11月に行った「偲ぶ会」で使用された追悼文(会員によって書かれたもの)を紹介します。会員が書ききれなかったぶんは、編集部でまとめました。(山崎さんについては、「偲ぶ会」のあと亡くなったことが判明したので、今号の発行に合わせて追悼文を書き下ろしました)亡くなった方それぞれに、それぞれの人生があり、共に笑い、泣き、そして悩んだり苦しんだりしたと思います。今後の「ほっと」発行を通して、亡くなられた会員の遺稿も再掲できればと思います。亡くなられた皆様方のご冥福をお祈りします。(編集部)

平野 博之さん
(1995年6月27日没、48歳)

H・S

障害者として闘ってきた平野さんへ私も障害者ですので、偏見などで大変な不自由を経験しています。

平野さんも苦労したんですね。

お会い出来ませんでした。私は現在、ほっとスペースに通所し、何とか社会復帰のチャンスをつかがっているところです。

最近のほっとスペースでは、長崎旅行や海外旅行に行き、とても充実していました。

メンバーのみなさんは、明るく元気でやっています。

(平野さんについては、「赤堀さんと共に闘う会・八王子」の頃の会員で「ほっとスペース八王子」が共同作業所として発足したところには、五日市町(現・あきる野市)の病院に入院させられていました。平野さんは、「精神病者解放運動」の大切な仲間として、ここに偲びたいと思います。編集部)

松本 裕子さん

(1995年11月11日没、享年不詳)

共同作業所としてスタートした年、第2回の総会を前にした11月、松本さんは強い孤独感からか、独り、逝ってしまいました。当時の「ほっと」を見ると、追悼記事は強い自責の念にかられたものでした。

そのことを知ってか知らずか、松本さんは独り、逝ってしまいました。今現在、会員、もしくは元会員が亡くなったとき、ここまで強い自責の念は持てるかと言えば、自信はありません。でも悲しみの気持ちは、今も昔も大きく変わることはありません。それがいつときでも同じ時間を過ごした仲間であれば、なおさらです。

「ほっとスペース八王子」は、故人に教えられて前進しているということを中心に留めておかなければなりません。(編集部)



乙津 菊江さん
(1997年5月10日没、48歳)

乙津さんは、「ある人」(編集部注)の免訴を勝ち取る運動の中で、その「ある人」の事をお慕いし、のちには結婚の約束をするまでに至りました。それ以前から「赤堀さんと共に闘う会・八王子」の時代から、精神病者解放運動に尽力した人です。運動のモチベーションを保つために、「ある人」の存在は乙津さんにとって何よりも大切な、必要不可欠な存在だったのでしょう。さらなる前進のために、結婚の約束までし、これからというところで亡くなってしまう乙津さん。さぞや無念でありましょ。

そういった情熱の継承をしたいところですが、なかなか難しいと思います。故人を偲びます。(編集部)

(編集部注。「ある人」とは、ある有名な事件で無実の罪を着せられた人です。現在公判停止中のままです。ここでは敢えて「ある人」表記にさせていただきます)



真ん中の人が井上さんです。

井上 悠紀子さん
（1997年8月没、享年不詳）

井上さんが亡くなった頃の「ほっと」バックナンバーをひもといたところ、その号の特集は、「結婚式特集」でした。華やかなりし頃の「ほっとスペース王子」であった反面、この年だけで、乙津菊江さん、藤原ふみえさん、そして井上さんと、3人も亡くなっていました。

最近でも、元会員の計報を年に1、2回くらい耳にします。遺稿もなく、「ほっと」36号で小さく取り上げられたくらいひっそりと亡くなった井上さん。これからは（なるべく）毎年偲びます。
（編集部）



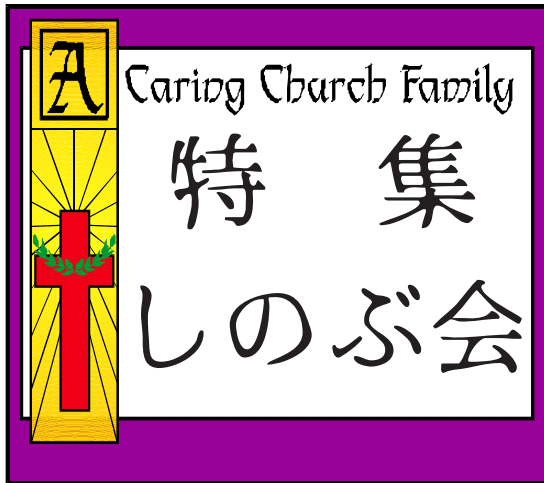
2004年総会のようす。熱気を引き継げるか！

藤原 ふみえさん
（1997年10月没、47歳）
P. 6000

第36号、ほっとニュースによると、『藤原さんは、恩方病院入院中、心筋梗塞で亡くなりました。享年47歳。「わかくさ福祉会」の「オーブンスペース本郷町の家」に通いつつ、月一回、ほっと例会に参加。

高校二年の時に発病されました。何度もし入退院を繰り返すという辛い体験を経験されたそうです。

その間、結婚され、二人のお子さんを授かったそうです。僕は一度もお伺いいたしません、お子さんらは、順調に育っているようです』



第36号に掲載された二枚の写真を伺うと、どれもウェーブの髪型で、ふくよかで幸せそうな顔を拝見いたしました。

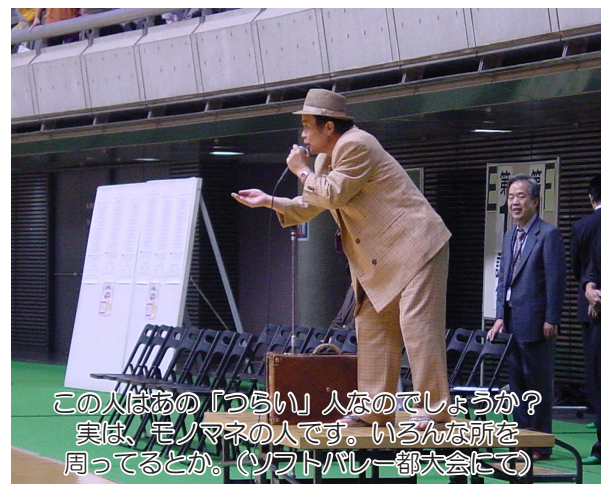
カラオケが大好きなようで、目線はまっすぐでマイクをしっかりと握り締め、いらっしやいます。

ほっとや育児にも悩みながら自分の任せられた役割に一生懸命な方と印象受けました。

僕は、精神障害者が生き抜くって本当に大変なことだと感じます。

なぜなら、学生から自由人になる20代過ぎててもルールに縛られた社会的制約が多いこと。

弱者偏見や人権疎外感、僕は好きで障害者をしているわけではありませぬ。



頭脳労働を僕は、得意とします。頭をこねくり返すことが、精神障害者の悶絶した悩みです。

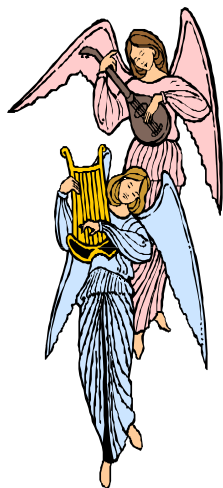
駆けずり回って得た出会いを大切に、して今を生きています。

僕は入退院を繰り返したケースはありません。しかし、今年（2015年）4月に三回目の短期入院。

入院中、病棟内の男女の悩みごとのことづてをお聞きしました。「たぶん、こうだったんだろうな」と、

藤原さんから入退院を繰り返す理由や事情の雰囲気を入院中、隔離から自由解放へを思い出しました。

（ほっとニュース第36号一部引用、一部改編）



良き友人を失ったと思うと残念でなりません。多田道夫さん(第二代「ほっとスペース八王子」代表)とは宗教の点では違いますが、固い絆で結ばれ、精神病者としての信頼関係を築いていました。

彼はお酒が好きでその点も私と同じでしたので、たまに居酒屋に入って色々話をしながらお酒を飲みました。

30歳で急死しましたが、生きていれば私の良い友となっただろうと思うと、胸がつまります。

大橋さんは最初パオで出会いました。話をした所、彼は私と同じ広島出身で、更に高校も一緒でした。それにカープファンで、多分、サッカーもサンフレッチェ広島ファンだったと思います。今年年間順位で一位だったので、天国で喜んでいると思います。

大橋 信夫さん
(1998年7月18日没、30歳)
きくちはるみ
菊池春海



バレーボール大会後の一コマ。栄光は記憶とともに

篠岡 明子さん
(1999年5月8日没、54歳)

華麗な経歴の中で、人知れずストレス、病の苦しみと闘い続けて来た篠岡さん。

1999年のとある夜、どんな思いで身をひるがえらせたのでしょうか。「ほっと」46号で会員職員みんなが篠岡さんを悼み、そして日々の忙しさの中に埋没していききました。

2014年から、再び「偲ぶ会」を企画し、2回目を迎えた「偲ぶ会」で、ようやく故人の人となり浮かび上がってきました。篠岡さんが「ほっとスペース八王子」に遺した足跡は、決して小さなものではなかったようです。(編集部)



高橋 功さん
(2009年8月没、45歳)

Cくん

私は、高橋功さんと面識がないし、その人の事を全くわかりませんが、「ほっと」スペース八王子「ニュース第35号」を読んで、自分なりにどんな方なのか?想像してみました。なんとなく感じるのは、亭主関白で優しい方なのかあと感じました。また、相手のY子さんがいて、幸せなんじゃないかなあと文面では感じたのですが、高橋功さんの中で何か孤独を感じていたのでしょうか?何故?お相手のY子さんを残されて、逝ってしまったのか?疑問に感じました。ご冥福をお祈り致します。



10年以上前の望年会。
いかんせん故人の写真アーカイブが少なくて
すみませんです。

嶋川 光さん

(2000年没、30歳)

ほっとニュース第54、57、58号追悼文を読んで

P. 6000

80年代ロック好き。誰しも好きなことは良いことです。「何かに没頭できる趣味を持つことは自分の活力源につながります」

「ご存命であれば、ロックについて語ってお話をお聞きしたかった。しかし、プロフィールを見ると、「性格は暗く自閉的、ヘビースモーカー、フリーデンで生活保護」とあります。やっぱり、ロッカーかも?

ただし、彼が急いでいるということではなく、自分風に生きていたと、よ

く分かりました。

それまで、職業は郵政省外務事務官で赤坂郵便局から足立区役所、東京都清掃局3回本職公務員となったそうです。

嶋川さん、ネット上で精神病患者労働運動の意義を若さや実力を以て訴えていらっしやっただそうです。

僕はそういう、運動は無知なので、ぜひ考えたいです。

精神障害者にとって飲み薬は大事です。嶋川さんは、一日に14種類計34錠も飲んでいたそうです。

強烈なドラッグ求め死にかかったと遺稿にあります。ただ、何度も救急車で搬送されて命の大切さを学んだと行間を知りました。

彼の食事はドカ食だったのが、3食になったというし、薬を5種類5錠に減らしたとあり、彼は悟り「誰しも孤独ではない」と僕は伺えました。

様々な経歴をお持ちの嶋川さん、若さゆえにほっとにとって財産だったでしょうに。

僕は何と引き換えすればいいか、それはほっとを続けること。意義ありました。

(ほっとニュース一部引用、改編)



そして10周年。多くの悲しみを抱えながらも。

澤原 昭美さん

(2003年6月22日没、31歳)

澤原さんについては、いろいろ調べてみたところ、かなり古い資料の中に亡くなった日時を見つけることができました。

「ほっと」のバックナンバーをひもとくと、遺された記事が59号にありました。投薬について不満があったようです。

「ほっとスペース八王子」では、最近でもある日突然会員と連絡が取れなくなり、現状を把握するところには亡くなってから1年以上経っていたということも珍しい事ではありません。

「仕方ないこと」とは割り切れるも

のでもなく、とてもいたたまれないことです。

毎年「偲ぶ会」を開催して、少しずつ人となりをすることも「故人を偲ぶ」ことになれば、と思います。(編集部)

小林 敏悟さん

(2005年没、67歳)

菊池春海

私が以前住んでいた子安町で、たまに見かけました。近くにあるラーメン屋さんで、ツケで食べたのですが、お金を払う前に亡くなり、店主がほっとまで集金に来ましたが、亡くなったという事で、いわば踏み倒して亡くなりました。

小林さんの人柄は良い人で、誰にも



優しかったです。10年前に67歳で亡くなりましたが、あの人の笑顔が忘れられません。今でも生きていけば、ほっとの空気も、又違ったものと思います。惜しい人を亡くし、残念です。

多田 健夫さん

(2005年没、59歳)

H・S

数学好きの多田さんへ

多田道夫二代代表の弟さんにして、数字好きの多田さんへ、私も数学の事を書きたいと思います。

私は誰でも分かれると思われる内容で書きますので、追悼会のみなさんも最後まで読んで考えて下さるとうれしいです。

意識とは何かとは、まだ科学で解決できる目処がたっていない問題の一つだそうです。ですので、これから書くことは、多田さんに、伝わるかもしれませんが、伝わらないかもしれませぬ。それは意識とは何かわからないからです。

3分の1=0.3333333333...
これが元の式になります。



両辺を2倍すると
 $3分の2=0.66666666...$
 両辺を3倍すると
 $3分の3=0.99999999...$
 ですが3分の3は1です。
 $1=0.99999999...$
 です。
 これは正しいのでしょうか？
 それとも途中の計算に間違いがある
 のでしょうか？
 結論ですが、途中の計算は正しく、
 $1=0.99999999...$ は正しい
 そうです。
 私はそこまで数学に詳しくないの
 で、結果だけしかわかりません。
 数学の奥の深さを垣間見ることがで
 きました。
 多田さんならわかるかもしれません。
 みんなで数学を考え、多田さんを追
 悼したいと思います。



小泉 宏三さん
 （没年、享年ともに詳細不明）
 Cくん

私は、小泉宏三さんの事を知らない
 ので、想像力を膨らませて、判断する
 しかありませんが、「ほっとスペース
 八王子」ニュース各号を読んで、中間
 管理職のリストラ部門を担当されてい
 たせいなのか？ 繊細さと豪胆さの両方
 を兼ね備えていたのかなあとと思いまし
 た。文面からは、体調が良くなってい
 く課程やご自身の考えをしっかりと持っ
 ている人で、自分の意見をしっかりと言
 う人なんだという事がわかりました。
 どうしてお亡くなりになられたのか？
 わかりませんがご冥福をお祈り致しま
 す。



ジミーさん。早すぎる死が悼まれます。

望月 茂良（ジミー）さん
 （2007年没、41歳）

菊池春海

私は個人的にはジミーさんとは短い
 間でした。バレーボールが好きで、優
 勝出来なかった事をとても悔しく、次
 こそ是非と思い、自分の意思を、叶え
 たいと思っていました。

高知大会では、銅メダルを取ったの
 は嬉しい事だと言って、優勝を、後
 一步で逃した悔しさをにじませる姿
 が、とても印象深い人でした。静岡大
 会では、銀メダルを取って鈴木監督を
 胸上げする所などとても嬉しそうでし
 た。

まだ若くもっと長生きして欲しかっ
 たです。今もほっとにいれば、皆の雰
 囲気も、変わっていたかもしれません。



和田さん。（向かって右端）
 和田さんについては、
 追って再掲します。

和田 重徳さん
 （2009年8月没、54歳）

2009年の夏、とあるグループ
 ホームで「孤独死」してしまった和田
 さん。故人を想うとき、このことに触
 れていいのかどうか筆者は迷います。
 何故なら関係者みんなが傷ついたから
 です。お互いが傷つくことを知ってグ
 ループホーム関係者を糾弾する事は、
 当時としては必要なことだったと思
 います。それを忘れず、再発をさせな
 い、という意味で必要なことだと思
 います。

和田さんがいたころとは、「ほっと
 スペース八王子」もほとんどメンバー
 が入れ替わってしまいました。

筆者のイメージする和田さんは、マ
 ジックを披露する、屈託のない純真な
 笑顔が印象的な和田さんです。

できればそのイメージのままで偲び
 たい、そう思います。（編集部）



小林照代さん。まさ子さんのPNで「ほっと」を盛り立ててくれました。追って再掲します。

小林 照代さん

（2009年8月19日没、57歳）

山口咲子

せっかちで夜中にパンを食べて死んでしまいました。

子ども思いでモスで子どもにおみやげを買っていました。

とても明るい人で照代さんがいるだけで雰囲気明るくなる人でした。

私は加わらなかつたけど、噂話が好きで、新年になると、抱負で噂話はやめると決意しても、時々出てきてしま

うこともあったみたいです。

ご冥福をお祈りします。

八木 宏明さん

（2011年4月没、55歳）

リネカー

八木宏明さんと、私とは多少の面識があり、ほっとにお互いが来て、会う度に、親しくなっていました。

最初にお会いした時には、失礼ですが、少々暗い印象がありました。話を追って話を進めて行く度に馬が合つて、一緒に話をするようになりました。それから八木さんとの付き合いが始まるようになりました。

モスバーガーと一緒にお茶を飲んだり致しました。そのうち、様々な話をするようになりました。内容は、ほっとスペースの事だったり、ここでは言



えないような話まで、色々と、語り合つた事があります。

その時の八木さんの様子は、タバコを喫いながら、楽しそうに話してい

らっしゃいました。

皆さんの八木さんに対しての印象は、性格が優しいという点でした。また、ちょっと内向的だったというのも聞いております。皆さん共通して、おっしゃっているのは、穏やかで、物静かな方だな、というのが印象的でした。

また望年会ではビンゴゲームの景品を辞退するという話もうかがいました。とても思慮深い人だな、というの

も印象的でした。

しかし、お葬式には、親族ごなたもいらつしやらないというの、かわい

そうだと思いました。

小野 勝弘さん

（2011年9月没、58歳）

UFO

小野さんは、安兵衛さんと病院が一緒で、安兵衛さんを、観念論者だと言つて、安兵衛さんはショックを受けて、その後、安兵衛さんは「赤堀さんと共に闘う会」で忙しくなり、小野さんが転倒してまだ意識があつたのに、そのまま孤独死してしまったことは、彼にとって、また遺された人たちとりわけ安兵衛さんにとつてどんなにか悔しかったかと思われま

す。安兵衛さんよりも五つ年下の彼がまだ生きていれば、ほっとに対して色々

と活動的で、良いメンバーになったと思うと、その点でもとても悔やま



国立市某所で行われた八木さんの四十九日法要。



仲田道子さん。そんなに頑張らなくてよかったのに

藤原（仲田）道子さん
（2012年2月没、42歳）

菊池春海

職員として入った藤原道子さんは、結婚して仲田の姓を名乗りましたが、エレクトーンが好きで、毎週金曜日には楽しそうに弾いていました。

病院も私と同じで親近感がありました。後の夫となった人と、多少のめめごとがあり、自ら命を絶しましたが、もっと長生きして欲しかったです。

私、個人的にはすぐ近くのモスバーガーでお茶をしながら楽しく話をしていました。そういう時間がもっと欲しかったのですが残念です。



2011年長崎にて安兵衛さんと。

彼女は美女という訳ではなかったですが、可愛らしい顔をして、親しみ易く、話をしてとても好感の持てる女性でした。

今も私の胸に息づいている女性でした。動物も好きで捨て猫を拾い自分で飼って、世話をし遊んであげる様な面もあり、今はもうこの世にいないと思うととても淋しく思っています。

橋本 秀一さん

（2012年7月7日没、49歳）

菊池春海

橋本さんは、元気で明るくて素直で分らない所があれば、少々恥ずかしくても、堂々と訊いていた人でした。



橋本秀一さん。カラオケが好きだったようです。

山口咲子さんと、仲良く、週に一度は付き合っていて色々な所へ出掛けて、とても嬉しそうでした。

生きていればもっとこの人生を、楽しめたのと思うと、彼もこの世に別れを告げるとは心ならずにもさぞかし残念でならないと思います。橋本さん安らかに。

山口咲子

遊園地が好きでよくジェットコースターに乗っていました。

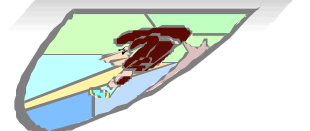
食いしん坊で鼻血が出るくらい食べていました。

体形は太っていましたが、亡くなる三ヶ月位前にはやせていました。



上平 薫さん

（2012年没、58歳）



上平さんについては、「ほっと」の関連記事、遺稿もなく、亡くなったいきさつについても、詳しい事はわかりません。翻訳家で、ときどき来てはすぐに帰ってしまうという人でした。もしかしたらそれが、彼なりの精いっぱいのアピールだったのかもしれない。

編集部が筆者が会員として入会したころ、通所名簿に名前があったことだけは覚えています。おそらく、「偲ぶ会」で取り上げた人は、「ほっとスペース八王子」の会員として利用したことのある人たちであることは間違いないようです。

そう考えると、もしかしたら元会員の中には他にも亡くなった人がいるかもしれません。

「ほっとスペース八王子」としては、今現在把握している故人を偲ぶのみです。

（編集部）

鴎原さんは、15年前くらいに多摩総合保健福祉センターで知り合い、スーパー銭湯、食事に行ったりとか温泉、富士急ハイランドなどに遊びに行ったりして、リーダー的な人で、優しい方でした。あとお酒も好きだったという思い出があります。

ほっとスペース八王子の「ほっと」ニュースの鴎原さんの記事を読ませていただきましたが、昔多摩総に居た時より楽しそうな感じがしました。

2003年、ほっとの秋レクで秩父

鴎原 洋一さん
(2012年没、52歳)

キャロル



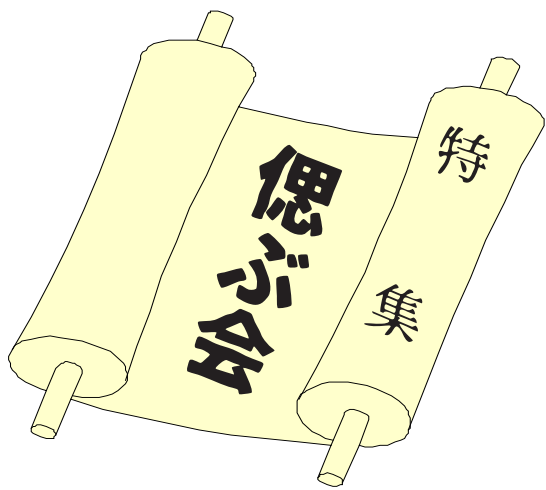
八木さんの告別式後の光景。みんな憔悴(しょうすい)しきっています。

にキャンプに行ってきた話や写真を見ても元気そうで人柄の良さが出ていました。

ファミリーレストランなどで、鴎原さんはワインが好きだったのでよく飲んでいました。一緒に飲んだ事があるのですが、僕はお酒が弱いので先に寝てしまいました。

バレーボールの高知大会などの記事もあり銅メダルをゲットしたなど、嬉しそうな文章も載っていました。

52歳という若さで亡くなってしまったと知って非常に残念です。二〇二二年に亡くなったので、僕がほっとに来た時にはいらっしやいませでした。もしいらっしやったら、またもう一度一緒にサウナに行きたかったなあと思いました。



鮎澤晴美さん。楽しそうに話されていたのが印象に残っています。

鮎澤 晴美さん
(2013年4月ごろ没、享年52歳)

リネカー

鮎澤さんとは、ほっとスペースで4、5回お会いし、お話しした記憶があります。

ある時はエレクトーンを弾いていた記憶があります。

鮎澤さんとも、八木さん同様に馬が合い、10分程度話した事があります。けっこう、気さくな方で、声をかけて頂いた記憶があります。

しかし、反面、気の強い方で元職員のYさんや、安兵衛さんに、食ってかかるような場面もありました。

その反面、僕には優しく接して下さいました。その落差に驚いた事もありました。

しかし、感情の起伏(きふく)が激しい一方で、優しい一面も持ち合わせていらっしやる方なのだなあというのが、僕の鮎澤さんに対する印象です。

また、書道やピアノも趣味らしく、エレクトーンを一生懸命弾いていた姿も印象に残っています。

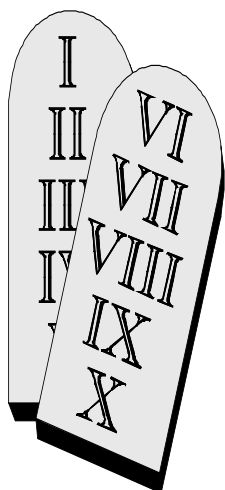
「ほっと」の記事にあつた入会あいさつでは、琴など、他の趣味についても話していらっしやいました。

ほっとスペース八王子は英語のHOTを意味する暖かい所だともおっしゃっていらっしやいました。

また、他の作業所では、「人と話しづらかった」ともおっしゃっており、ほっとスペースは、誰でも受け入れてくれる所だとも、おっしゃっていました。

ほっとは毎日、学ぶ事があるとおっしゃっていました。

心より、ご冥福を、お祈り申し上げます。





岩澤篤子さん。

アニメの話とか、したかったです。（編集部）

2006.12.28

岩澤篤子さんは、2006年、八王子保健所で行われた、心の健康フェスティバルに参加していました。

うさぎの着ぐるみを着て障害者自立支援法に反対するピュを配ったり、ほっとのニュースや、石鹸のセットを売ったりしていました。

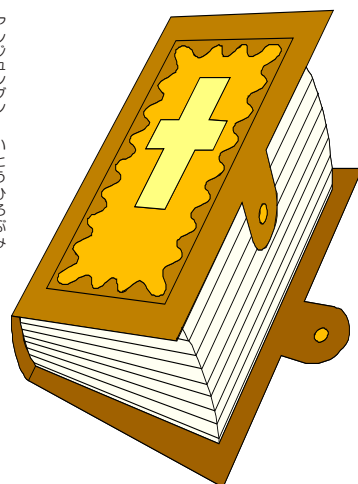
岩澤さんは、多くの人に、障害者が抱えている苦しみを解^{わか}つてもらおうと、頑張っていました。

岩澤さんは、2009年、韓国研修旅行に参加しています。研修テーマを

岩澤 篤子さん

（2013年1月没、46歳）

UFO



「安重根と伊藤博文」にして、「2009年は、伊藤博文暗殺からちょうど100年、韓国の安重根記念館でも、お祭りが開かれているでしょう。それを現地で、しっかり見てきたいと思えます」という意気込みを書き遺しています。2頁半の長いレポートを書いていました。

岩澤さんは、障害者自立支援法の反対運動で頑張っていました。うさぎの着ぐるみを着てやっていたりと、面白いところもあった人みたいです。反面、研修旅行で、長いレポートを書いている真面目な方だったと思います。会ったことのない人でしたが、ちょっと親しみがわきました。

山口咲子

他人想いのとてもやさしい人でした。



大根田 恭一さん。大根田さんにとって、良き晩年だったのか、それだけが気がかりです。

四十六歳の若さで天国に行ってしまった岩澤さん。良かったなあと思ったり、悪かったなあと思ったり悩んだりして、カベにぶつかったりあえいでいる気持ちがよくには分かります。

大根田 恭一さん
（2015年4月没、63歳）

リネカー

大根田さんとは、昔、ほっとのプログラムにあった（現在でもありますが、「絵画教室」でお会いしたのが始まりでした。

第一印象は、朴訥^{ぼくどつ}とした話し方で、近寄りやすい印象がありましたが、絵

キャロル



大根田さんの遺作となった油彩。

画教室等で絵の描き方を教えて頂いて、また、随分^{すいぶん}丁寧^{ていねい}に教えて頂いたので、次第に大根田さんに対する親近感がわいてきました。が、しかし、ある時は安兵衛さんのことを呼び捨てにしたり、絵画教室のボランティア料を請求する事を私に言ってきたりすることもありました。

そういう一面もある人なのだな、と思った事もありました。

ただ絵画教室以外では、あまりお付き合いをしたことは、ありませんでした。

また大根田さんの家にヘルパーとして行かないか、という話を頂いた事もありましたが、もう行く事は永久に出来ません。

今だに大根田さんが亡くなった事が信じられません。心よりご冥福を、お祈り申し上げます。



山崎 俊彦さん

（2015年3月14日没、46歳）
孫悟麵

山崎さんは、ちょうどほっとスペース八王子がNPO法人格を取得する前くらいに少し通所していました。

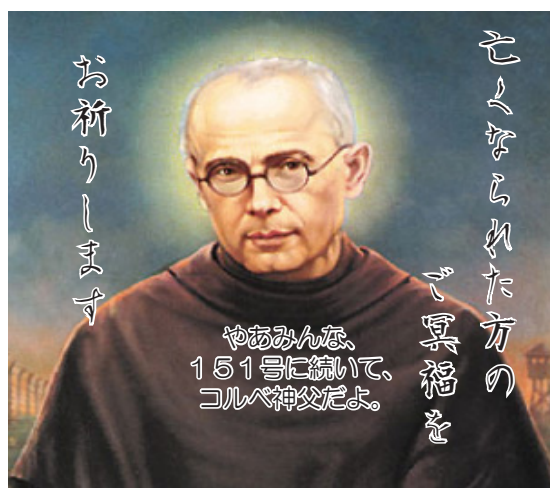
入会してしばらくは、病気が少し良くなってきたらそのうち働きたい、という意欲のある人でした。

筆者が昼食を摂っていると、料理を教えてほしいとも言っていました。

「ほっと」の記事を依頼すると、快く受けてくれるところもある人でした。反面、疲れやすい人でもありました。ほっとスペース八王子に来ると、すぐに横になって休んでしまうくらい疲れやすいところがありました。その

うち通わなくなると、しばらくして一回だけ来て、そしてもう来なくなりました。しばらくは安兵衛所長が電話で話をしていました。そのうちそれもなく、「ほっと」と年賀状を送るくらいになって、2016年の年が明けたある日、ほっとスペース八王子の留守電に亡くなったという家族の伝言がありました。

病状が悪化して疎遠になって、そして亡くなったということは想定されることとはいえ、やっぱりあまりにも寂しいことです。「もっと話をすればよかった」という後悔の念しか遺された人たちは持ちえません。「次に会うときはまたほっとで」と思っていたのに、まさか「偲ぶ会」の記事を書くことになるうとは思いませんでした。



한국 교육 여행 韓国研修旅行



韓国のりはおいしかったです

P. 6000

中部市場周辺の焼肉店で食べた食材で食中毒になり、韓国から帰国してすぐにピーピーでお腹を壊しました（笑）。食べすぎが原因だと日野市立病院の内科医H医師にそのようにお聞きしました。整腸剤を処方いただきました。

自宅療養が二週間近くかかり、何をしたらというと、梅干しは刺激が強いので、丸一つでなく、半欠けで半欠けの梅干しのおかゆと蜂蜜入りのパンがゆでした。おかゆは、なんとか梅干しで何とかいけましたが、パンがゆはそのままで、食べにくく、蜂蜜を入れたら、吐き気なく食べやすかったです。その国の気候や食べ方に合った食材があるのだと、介護食というと語弊がありますが、試してああ、アルファ化された食材工夫、胃に負担なく優しくなるとよくわかりました。





伊藤博文公狙撃事件のあった哈爾濱駅

今回、行きも帰りも雨でした。しかも僕はサンダルでコリヤきついなと（苦笑）長靴で来れば良かったです。4人だったので、交通手段はタクシーでした。初乗り3000W（3000円）から、伊藤博文を暗殺した安重根記念館へ行ったり、景福宮（キョンボクン）へ向かいましました。記念館は10時から開館で今回も一時間前の9時に着き、時間をつぶそうと近辺の博物館で待機していました。安重根の白い石像が出向いてくれました。花が添えられ立派でした。韓国史を理解するにも過去へさかのぼるほど、農耕あったり、住居に溝を掘ったり杭を打ったりと、日本より進んでいました。それだけ、部外者には危機感があったようです。



ロッテデパートソウル店。なお日本にはロッテデパートはありません。

光化門と通って、景福宮の中へ。明成皇后（ミョンソン皇后）いた時代に、頂点に立ったミョンソン皇后は、民衆を従えつつ、さぞかし晴れの青空の下、景福宮では、広々としていて、気分良かったとイメージします。ああ、僕も星を操りたい。なぜ星かって？ Face bookをご覧くださいね。

ロッテデパートへ行く機会あって韓国御用達の高級海苔もありました。「名家チョサリ岩海苔」です。これは「1年のうち、約15日の間だけ生成される新海苔を使った限定生産品」で、安兵衛さんに強制で「ここまで来たんだから！」と、僕は、買いました。僕はすでに中部市場で沢山色々買ったのに、手荷物一杯で、税関に引っかかっ



たら食えもしないで、とおすんの！不満気でした。安兵衛さんは、これで何十人の精神障害者を潰してきたのか、わかっているのでしょうか？元氣だからって潰しかかるのなら、僕も考えがあります。科学者のうちだけに分かる話ですから。

日本が韓国に多大な負荷をかけました。韓国に日本語を使えだとか、無茶振りもいとこでした。欧州の植民地支配を参考に各国の例を経た日本は、植民地支配として韓国を強制したのは、友好関係を持てずに却って韓国民衆の心を荒らしただけで良くなかったです。結局、同じ星に住む以上、仲良くしなくちゃいけない。競っても争ってはダメです。血は輸血だけです。無駄な血は流したくないです。平和一番、文化二番、……。

来年の韓国テーマは、マッコリ、にしようか。大酒呑みの赤鬼が笑うかな？ははは。

（2015/10/30）



大韓航空機内（イメージ）。飛行機電話（座席間通話機）があるとか。

はじめて飛行機電話を
かけてみました

H・S

今回韓国研修旅行に二泊三日で行ってきました。

私は海外旅行が大好きです。その楽しさやノウハウ的な事も書きたいと思いますので、行った事のない方は是非一度は行くことをお勧めします。

特に韓国は一番少ない予算で行ける国になります。海外は治安が悪くて不安と考える方もいると思いますが、韓国では特にそういった事は無いと思います。ですので、次回ほっとスペースで海外に行く機会があり興味を持た

まず初日、羽田空港から国際線で行ったのですが、飛行機に電話機がついていたので電話をかけてみました。受話器の横にクレジットカードを通す隙間があり、そこにカードを通すと料金の支払いになります。

私は飛行機の電話を一度も使った事がないので使ってみたくなり、友人に電話しました。普通に使えました。

また同じ飛行機の座席同士で座席番号を押すとかけることができます。この場合は無料です。

れましたら、是非参加すると良いと思います。



ソウルのメイン玄関口、仁川空港。実はソウル市内に空港はなく、バスで40分程の仁川市か、金浦市に空港があります。



ところで、一番私が海外旅行で重要だと考える事を言いたいと思います。それは、旅行先では、参加者の歩幅の違いが出やすいので、ケンカになる事です。

成田離婚は、無理に同じ行動を取るためにケンカになって起こると思います。

せっかくお金をかけて行ったのですから、そんなつまらない事になるのは良くないです。

今回の旅行はみんな仲良く行く事ができました。

韓国研修旅行 事後研修レポート

堀部 正

第8回韓国研修旅行は真如苑の助成金で実施されました。

今回は参加者も一新して、新規参加者は3名、一人は職員の引率で僕一人という構成で実施されました。

今回も恒例のアンジユングン記念館を皮切りに、研修が始まりましたが、今回は土砂降りの雨で、ナムサン（南山）公園登山は無しにしました。

アンジユングン記念館から直接にタクシードカンファムン（光化門）に向かい、キョンボックン（景福宮）に入りました。

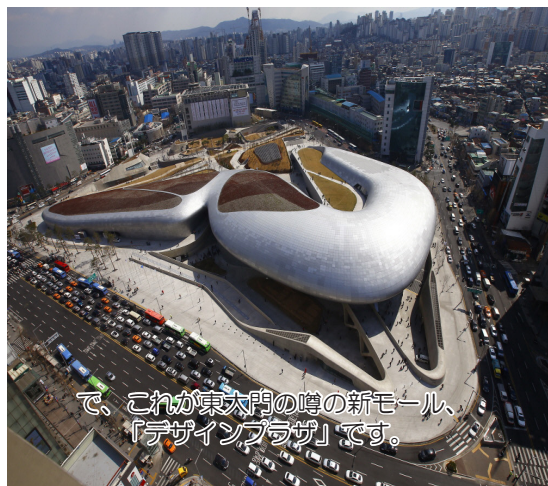
今年はミョンソン皇后の居宮であるコンチョングン（乾清宮）を背後から入所しようとキョンボックン（景福宮）の奥に入り、コンチョングン（乾清宮）の方向に行くと、キョンボックン（景福宮）がこんなに広いのかという思いをしました。更に、日本軍などを中心としたミョンソン皇后暗殺部隊がキョンボックン（景福宮）の内部をかなり知り尽くしていなければ、しかも、ミョンソン皇后の顔を知っていなければ、短時間のうちに暗殺を成し遂げること



はほとんど不可能に近いと思いました。外交官出身でもない軍人上りの三浦梧楼特使が中心となる暗殺部隊の特殊性が浮かび上がってきました。

今回の韓国研修旅行は前述のように新規参加者3名で、いつものコースとは異なったコースで研修しました。

キョンボックン（景福宮）の最後は民俗博物館を見て、チュンブシジャン（中部市場）に買い物に行くコースはいつものコースでしたが、夕食はチュンブシジャン（中部市場）で行いました。今回の参加者が食べたがっていた焼肉と冷麺を中心にサムギョプサル（豚ばら肉の塩焼き肉）を皆で突っつきました。もちろん、キムチは食べ放題です。美味しい手作りのキムチはさすがに美味しいです。



で、これが東大門の噂の新モール、
「デザインプラザ」です。

トンデムン（東大門）に出来た新モールは圧巻でした。（左の写真参照）
今回はタクシーの車窓から見るだけでしたが、凄い建物が出来たものだと思いました。今回の研修旅行の今迄との違いはタクシーをよく利用したことでした。しかし、タクシー代は地下鉄代などと同じように日本とは桁違いに安い。短時間で効率よく移動するには気軽に使える交通機関でした。
歩いて見て回る楽しさは地下鉄の地下道を二駅分くらいで味わいました。カフェーに入ったり韓国スイーツなど食べて、ぼちぼち歩いて楽しみました。
2016年の3月には初めてのブサン研修旅行となりました。これも真如苑の助成金で実施されます。研修レポートは後ほどのお楽しみに。

12時定刻通り、集会はスタートしました。主催者である杏林大学の長谷川利夫さんによる開会宣言、基調報告のあと、来賓による挨拶。ジャーナリストの大熊一夫さん、精神科医の金杉和夫さん、小池晃参院議員、田村智子参院議員（共産）、山口和之参院議員（みんなの党（当時）、三宅雪子元衆院議

午前10時に京王八王子駅に集合、新宿から丸ノ内線で霞ヶ関から歩いて数分、会場の日比谷公園野外音楽堂にはちよつと早めに着きました。平日にもかかわらず会場は大勢の人で賑わっていました。気温のせいなのか、人々の熱気のせいなのか、とても暑かったです。

孫悟麴

生活するのは普通の場所がいい STOP! 精神科病棟転換型居住系施設!! 6.26緊急集会レポート

話に戻って、その後リレートーク。当事者、その家族による訴え。10年、20年はザラという長期入院者の生のは貴重でした。しかし、文献を読んだり、話を聞いたりといたただけでは、長期入院者の苦労はなかなか理解できないということも実感できました。

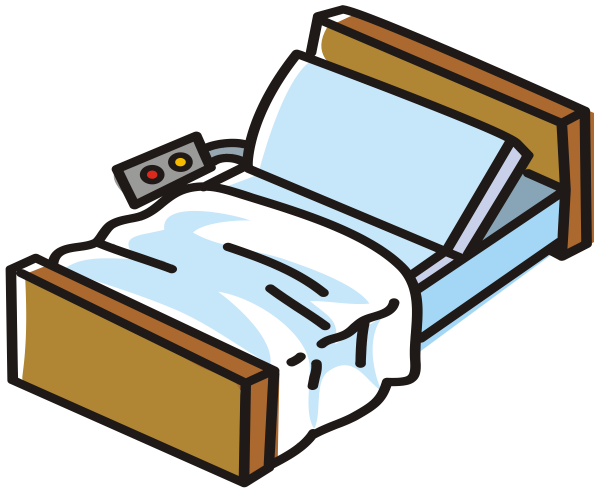
精神科病棟転換型居住系施設が開設されるにあたって、法整備もなされて、法的には問題ないでしょう。でも、そこに至るまでの過程で、問題点が話し合われなかったのでしょうか。与党、特に福祉の党を謳っている公明党は何も意見はなかったのでしょうか。

精神科病棟転換型居住系施設が開設されるにあたって、法整備もなされて、法的には問題ないでしょう。でも、そこに至るまでの過程で、問題点が話し合われなかったのでしょうか。与党、特に福祉の党を謳っている公明党は何も意見はなかったのでしょうか。



2014年6月26日日比谷野音で行われた
病棟転換型居住系施設推進反対の集会。

なものになってしまふような、そんな軽くなってしまうような気がしてなりません。
このことは、刑事拘留施設でも同じことが言えますし、また、啓蒙するにあたって、難しい点でもあるような気がします。
13・50〜10分間の休憩の後、さらにリレートーク。当事者やその家族に加え、医療現場から勇気ある告発をしてくれた人もいました。トークの合間に、応援で駆け付けた福島瑞穂参院議員（社民党）、川田龍平衆院議員（結いの党（当時））といった政治家、また、メッセージを寄せていただいた方もいらっしゃいました。



リレートークのあと、集会の告知チラシにもある声明文（緊急アピール）の朗読、おなじみ「全国精神病者集団」山本眞理さんの音頭でシユプレヒコールのあと、15時をちょっと前にしたところで散会となりました。

今回の集会で、いろいろ学ぶところもあったし、考えさせられる事もあり、また、有名な方が多くいらして印象に残る集会でもありました。

まず、チラシにもあった、生活するのは「普通の場所」がいい、というくだりですが、敢えて「普通の場所」を括弧つきで表現しましたが、当事者にとって、「普通の場所」で生活できることをどれだけ渴望してきたか、ということを手ラシから、スピーチから、



日比谷音楽堂を俯瞰。ここでどれだけの主張がなされてきたのだろう。

おそらく厚生労働省、立法院である議会、ひいては医療の現場である病院をして、病棟転換型居住施設を指して、「これが普通の場所」と言ってくるでしょう。当事者の要望も意見も取り入れている、権利は尊重するとも謳っています。また、多くの当事者も「おためごかされて」精神科病院に囚われたまま生涯を終える人も出てくるでしょう。

見てくれだけは立派な、現場の主張するところの、「開放的な施設」を謳っているのは間違いないところです。

今まで医療観察法について関心を持って学習してきましたが、少なくとも



も医療観察法は、触法精神障がい者に対する扱いでしたが（それでも人権侵害であるという疑念はかなり濃厚なのですが）、今回の精神科病棟転換型居住施設は、何の落ち度もない「ただ精神障がいがある」というだけで、世間とは隔離された、病院内にあるグループホームで生活させようという意図を以ていることは明白というより、まんま「隔離します」と公言しているのです。

今回は、平日の昼間にかかわらず、3000人を超える人たちが駆けつけてくれました。また、有名な政治家の先生をはじめ、各界（医療界、ジャーナリスト、弁護士など）や当事者とその家族も多く参加していました。



文字通り閉鎖された「閉鎖」病棟。

日弁連の声明にもあったように、精神科病棟転換型居住施設は実質的に精神科病院の病床数を増やすことに他なりませんし、人権侵害であることは明らかです。

立場上表明するのは難しいとは思いますが、法曹界において、検察や裁判官からも異論があつてしかるべきだと思います。ただ、この運動において難しい点もあります。最大の難点は世論だと思えます。まず、言いにくいのですが、「精神障がい者は隔離すべき」という意見は多数派というよりも圧倒的多数と言つていいかもしれません。その他は無関心ではないかと思えます。粘り強い説得、啓蒙、広報が欠かせません。微力なれどその一端を担う梯になればと思ひを措きます。

熱気伝わる小ホール での反対集会

孫悟麴

2015年1月末に八王子で病棟転換型居住施設反対集会が行われました。

いちようホールの小ホールは、288名収容規模ですが、ほぼ満席の盛況でした。

八王子の内外からいろんな人が参加されていて、この問題の関心の高さを感じることができました。実際には前部座席は収納されていたので実質収容率は100%以上でしょう。



いちようホール全景。
病棟転換型居住系施設推進は一見頓挫したかに見えますが...

戦後の精神医療の方針として、入院を中心とした医療から通院や作業療法、リハビリといった地域医療への移行といった議論は、早い時期からされてきていました。しかし社会が成熟する一方で、うつなどの患者数は増え、精神疾患患者数は100万人以上、予備軍を含めれば1000万はいるだろうという状況になってきました。

医療費はかさみ、政府や自治体の財政を圧迫しかねない訴える人も多くいます。そこで行政改革の一端として医療費の圧縮に手を着けられたのですが、利権を確保した者がいる一方で、多くの製薬会社や医師（特に勤務医）が割を食ったようです。病棟転換型居住施設もその過程で行われた政策の一環でしょう。30万以上に膨れ上がった病床数を減らし、新たにグループホーム化するなどといった試みです。

（一方で医療観察法による特別病床数は漸増の傾向にありますが、これについては別の機会に）

要するに患者の困り込みです。兼ねてから精神病院に於いて患者の長期入院が問題になっていたのですが、名目上退院させるだけで生活は実質的に入院中と変わらないという問題が生じることになりました。自分はいったんこのを見聞きする度に、さまざまな立場



実は現在作られているグループホームの中にはどさくさで病棟転換型のものがあるのかもしれない。注視すべきです。

から推測したり考察したりします。例えばこの件について反対する立場ではあるけれど、施行する立場にも言い分なり理由はあるはずだと考えてしまいます。

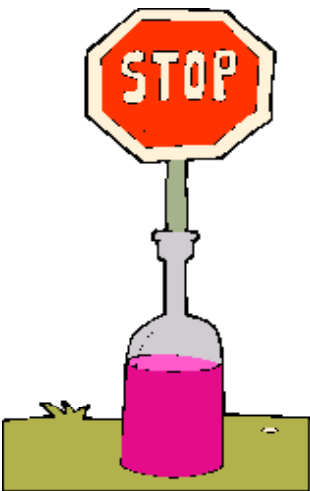
この件が人権問題であり、このことによって不利益を被る立場の人々の側に寄り添って動くべきというのは頭で判っています。ただ一方で、行政の医療費抑制策であること、これがある種の合理性を以て行われてきているということもなんとなく判ります。逆に、合理性を以て行われていることが単なる思い込み過ぎない面も否定できません。例えば、当事者は社会的公益性に於いて隔離すべきというのがまず思い込みの代表です。

治安面において、当事者が何か重大な刑事事件を起こしたとして、大きな

ニュースとして取り上げられるケースがあります。これは、当事者が重大事件を起こすこと自体が珍しいので（精神障がい者の刑事事件発生率は、健康者によるものより低いですが）、これはむしろ、その結果生じる心神喪失あるいは心神耗弱を理由とした無罪あるいは減刑といった処置に対する不公平感の発露によるもので、それこそが思い込みにも他なりません。

一般の人たちの関心度は高くなってきたとはいえ、まだまだ世論による思い込み、偏見による誤解も少なくありません。「よその国と較べて日本は」とかではなく、日本には日本のやりかた、道があります。

難しいかもしれませんが、長い目で見て当事者のためになることのみならず、国益、ひいては社会的利益につながる道を模索し、実現に向けて行動することがベストなのではないかと思われまふ。次回では医療観察法について書こうと思っています。



仏蘭西紀行 （最終回）

（国旗のイメージを載せたら、2色刷りの段階できれいなトリコロールが再現できませんでした。なぜか…）



モンサンミッシェルから帰って

リネカー

翌日、またパリ市内に行き、パリで一番大きな百貨店である、ガルリ・ラファイエット（Galeries Lafayette）という百貨店に入りました。

中国系がいたり、ヨーロッパ系がいたり、中には日本人もいました。

しかし、百貨店としては、三越や伊勢丹といった感じの百貨店でした。

僕はそのラファイエットで、ほっとスペースの人達向けのお土産のクッキーを買いました。

そして、夕食の時間になり、ラフェット近くのパリでは珍しい、ラーメン屋に入りました。

味噌ラーメンを注文しましたが、スープがとてもおいしく、完食してしまいました。

東京のラーメン屋と遜色ない味に、驚きました。

パリにこんなおいしいラーメン屋

がある事にとっても驚かされました。そして、ラーメンを食べた後、ホテルに帰り、床に着きました。

帰国

翌日、いよいよ帰国の日を迎えました。連泊していたホテルをチェックアウトして、バスに乗り、パリ市内を後にして、空港へと向かいました。

空港に着いて、二時間程、時間を空港内のファーストフード店でつぶして、飛行機に乗りました。

帰りは余り緊張せずに飛行機でゆっくりと過ごす事が出来ました。

そして、おいしい機内食を二回食べました。

帰りは行きよりも一時間早く、十一時間で羽田空港に着きました。

そして、羽田空港から、直行バスで京王線の南大沢駅まで行き、そこからタクシーで、自宅まで帰りました。

自宅に着いたのは、夜の九時頃でし

たが、時差ボケもせず、すぐに眠れました。

今、フランスから帰ってから、思う事は、やっぱり、日本という国はきれいで清潔だな、という事でした。

パリは花の都と言われていますが、道端には、犬のフンが落ちていたり、電車の窓は、ほこりだらけでしたし、落書きもしてあったり、トイレは便器のフタがなかったり、大変な思いもしました。

やはり、初の海外旅行、しかも先進国と言われているフランスですら、こういう状況ですから、やはり日本という国がいかに恵まれた国かが、よくわかった海外旅行でした。



ヴェルサイユ宮殿内。とにかく人が多い！

フランス旅行のまとめ

私はフランスに行ってきた訳ですが、フランスは外国なので、言葉が全然通じない、というのがまず第一の点です。

言葉が通じないという事は、現地の人とまったくコミュニケーションが取れないという事です。仏語はおろか、英語もまったく喋れない私としては、非常に苦勞致しました。

普段、日本にいる時は、言葉なんか意識もしなかったですが、いざフランスに行ってみると、普段意識していなかった言葉の問題にぶち当たり、ああ、ここフランスでは、自分は外国人なんだなあ、と思い、カルチャーショック



パリ市内某所の商店街。なんとなく仲見世っぽい。

を受けました。

第二の点はトイレの問題です。フランスには駅にトイレがなく、カフェでコーヒーを頼んで、トイレを借りる、というのが一般的ですが、トイレを借りに入ったマクドナルドでは、コーヒーを頼んで、トイレを借りたのですが、トイレが有料なのは、驚かされました。

また、さらに驚かされたのは、トイレのフタが無い事です。

これには大変、驚かされました。

仕方ないので、冷たい便座の上に座り、用を足しました。

第三の点は、食事です。

フランスはパン食中心の国なので、フランス人は、パンばかり食べていま



ムーラン・ド・ラ・ギャレット。
現役のダンスホールですが、ルノアールや
ゴッホなど著名画家がモチーフにすることで
有名です。

エッフェル塔から見たパリ市内。
高層ビルがなくて、なんとなく京都みたい。



した。

私はパン食が、しだいに飽きてきたので、家族でラーメン屋に入りました。が、普段、日本にいる時と変わらないラーメンの味に、感動してしまいました。

以上がフランス旅行で感じたことですが、やはり、住みやすさ、快適さは、日本が世界一なんだなと思いました。

トイレはどこにでもあるし、食事は万国の料理が味わえるし、電車は、綺麗だし、パリの街のように、犬のフンは落ちていないし、とても日本、とくに東京はとても美しい街なんだと再認識いたしました。

しかし、とりあえず外国へ行った事はとても自分自身にとって、自信がついたこととなりました。

一人でカフェに入ったり、一人でタクシーに乗ったり、とフランスでは様々な体験が出来、大変、自信がついたと思いました。

帰国して写真を見て改めて思い出したのですが、パリではいろいろなところに行きました。モンマルトルのサクレ・クールという大きな教会やテルトル広場、ムーラン・ド・ラ・ギャレットという風車を見たり、父や弟はサッカーの試合を見に行ったり、母はエッフェル塔に登ったりしていました。調べた所、有名な画家がモチーフにした場所も写真に残っていました。

このフランス旅行でつけた自信を韓国旅行に生かしていきたいと思いました。（ルポを書いたのは、2015年1月の韓国旅行前です）



セーヌ川。ミラポール橋はけっこう下流にあります。シテ島の近くみたいです。

編集後記

▼お待たせいたしました 152号の発行です。どうやら発行部数も二千を超えそうな勢いです。これも読者の皆様の支持のおかげです。本当にありがとうございます。

▼152号にして二千部に合わせた訳ではありませんが、これを機に新しいフォント（写植）をダウンロードしてみました。これはネット上にフリーでダウンロードできるフォントですが、買うとするとフォント（本当）に高いです。現実を思い知らされます。

▼今号の特集は「偲ぶ会」でした。かなりしなりました内容になってしまいましたが、これも必要なことなんです。こういった人たちがいてこそ「ほっとスペース八王子」だからです。

▼次号の予定は、韓国研修旅行（釜山編）木下大サーカスを見に行った編、医療観察法（予定）などです。編集部としては、もう少し会員が自己主張し、記事にしてほしいと思います。（編集部）